



ストライキで戦争止めよう!

9月19日未明、戦争法が強行採決させられた。圧倒的な労働者市民の反対の声を踏みにじり無視しての暴挙である。われわれはこの戦争法を断じて認めない。安倍政権は朝鮮侵略戦争への参戦を具体的に準備している。

しかし戦争は軍隊だけでできるわけではない。自治体はもちろんあらゆる産別の労働者の「戦争協力動員」なしには実施できない。JRが軍需物資や兵員などの輸送機関として動員されることは明白である。ベトナム戦争のときも、B52戦略爆撃機などの燃料輸送が行われ、そ



動労連帯高崎・木村組合員のスト報告は国会前の安保集会で圧倒的注目を浴びた (9月13日)

れに対して輸送阻止闘争が闘い抜かれた歴史がある。

今問題になっていることは、労働者・労働組合が職場で強制される「戦争動員」に対して、断固とした拒否闘争を展開できるか否かである。ストで闘う労働組合こそ絶対に必要なのだ。

9月17日

TTSと団交やったぞ!

動労連帯高崎は9月17日、高崎にあるTTS本社においてTTSと団体交渉を行った。そこで労働条件にも安全にも無責任すぎるTTSの態度があらためて明らかとなったので徹底的に弾劾したい。

TTSからは総務部長松本、運輸事業部長中島、同次長反町が出席した。7月2日に申し入れた要求に対して、木で鼻をくくった回答を行ったが、われわれは鋭く追及した。

■「育成がどうなるか判らない」と無責任な回答に怒り!

TTSは構内・検修部門の外注化によってどれだけの人員が出向に出されたかも、なかなか回答しようとしなかった。繰り返す

動労連帯は、9月12日に戦争法反対、外注化反対、人員と賃金増を求めるストを闘った。動労水戸は9月28日再びストに入る。動労千葉も10月1日ストを決行する。関西では、関西生コン支部が戦争法反対でストを闘った(9月11日)。本物の闘いが始まった。闘いはこれからだ。体を張ってでも戦争は絶対に阻止しよう!

返し回答を求め、ようやく渋々と136名(籠原43名)であると答えた。

「外注化はプロパーの育成のためというのが名目であったが、育成はできているのか」との追及には、「一人作るのに相当かかるので、どうなるか判らない」と回答。そんな無責任な育成があるか! だったら、JR本体で採用してこれまで同様の育成をするべきなのだ!

■25駅と3つの窓口が外注化され、150名も転籍となった

駅の外注化の実態を追及したところ、すでに150名がJESS(東日本ステーションサービス)に転籍となっていることが明らかとなった。その前

にTTSとして720名いた事から見ても、大量の転籍攻撃だったのだ。さらに転籍にともなう労働条件の変更については、「退職の条件はTTSは関係ない」と言い放った。いったん解雇⇒退職させておきながら、「関係ない」とは何事だ！ 労働契約法違反もはなはだしい！ これが全面外注化―出向・転籍の実態だ！ 絶対に許せない。

■清掃業務の要員は「定時に終わっているんだから足りている！」―ふざげんな！

ダイ改にともなって清掃の業務量が増えて要員が足りないことは周知の事実である。

ところがTTSは要員を増やして欲しい、というわれわれの要求に対してなんと、「籠原の清掃業務が増加していることは承知しているが、全体としては減っている」「仕事が定時に終わっているんだから、足りている」と回答した。じょうだんじゃない！ 必死の思いで駆けずり回って、過労死寸前、熱中症の危険のなかで働いている現実から「人が足りない」と言っているのに、「定時に終わっているから足りている！」と。労働者の必死の努力・まじめさを口実にして労働強化を正当化するなんて絶対に許せない。もはや必死

に働く義理はない。われわれがどれだけの仕事をやっているのか、痛い目に合わなければわからないのだ。

■「時給870円は十分な金額」！

これだけの重労働なのに、パートの時給870円はあまりに低い。手取りで10万程度では暮らせない、という追及に対して、TTSは「870円で応募して、それで人が来るんだから、この金額でいいんだ」と言い放った。冗談じゃない！ 来ても仕事のキツさに見合っていないから次々に辞めて行っている現実を何だと思ってるんだ！

こき使うだけこき使いながら、いやならやめろと言わんばかり。必死に働く労働者を安上がり道具としか見ていない。こんな会社にはストライキで労働者がどれだけの仕事をしているのか実力で示さなければ何も変わらない。それがいよいよ明らかとなった。

■「JRに言われたようにしているだけ」―TTSは安全には責任をとらない！

TTSは3月のダイ改にともなって、出区点検を平気で省略するようになった。この点について追及したところ、TTSは「JR

からこれについてはやってくれと指示が来ている。JRから言われていないことはやらない」と答えた。出区点検の省略はJRの指示に従っているだけだというのだ。鉄道の安全について主体的な責任を取る気がないということだ。外注化が文字通り安全の丸投げであり、JRもTTSも責任をとらない体制になっていることが暴露された。

TTSは労働者の労働条件についても、健康についても、鉄道輸送の安全についても無責任極まることでもないブラック企業であることがあらためて確認された。われわれがJRの相次ぐ事故の原因は、外注化にあると指摘してきたとおりなのだ。そして外注化が無責任体制を生んでいるのだ。

JRの責任が大きいことは明らかだが、外注化を受け入れ反対してこなかった東労組、国労、さらには東労組傘下のTTS労働組合の責任は大きい。多数派組合が何もやらないで、会社の言いなりになっていることが、ここまで労働条件を悪くし、賃金があがらず、安全が崩壊した現実を作り出しているのだ。

こんな会社の言いなりになっていたら生きていけない。戦争に突き進む安倍との闘いとJR・TTSとの闘いは一体だ。動労連帯高崎に入つてともに闘おう！

きりとり

動労連帯高崎 加入申込書

- 職場
- お名前
- 連絡先
- 要求・相談事項

(漆原芳郎 鈴木喜平 木村洋一にお渡し下さい。秘密は守ります。)